

SIT+AIT+KU+KMUTT+KMITL+TU+NTU gPBL :
河川流域の水・地盤環境・都市インフラを活かした
持続可能な社会の実現に関するワークショップ

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2026年2月16日 ～2026年2月25日	日本	芝浦工業大学 アジア工科大学院 カセサート大学 モンクト王工科大学トンプリー校 モンクト王工科大学ラクラン校 タマサート大学 国立台湾大学	・土木工学課程、 社会基盤学専攻 ・学部1年生、 学部2年生、 学部3年生、 学部4年生、 修士1年生、 修士2年生	【芝浦工業大学】 学生43名・教員2名・TA8名 【アジア工科大学院】 学生24名・教員2名 【カセサート大学】 学生78名・教員7名 【モンクト王工科大学トンプリー校】 学生23名・教員2名 【モンクト王工科大学ラクラン校】 学生15名・教員3名 【タマサート大学】 学生7名・教員2名 【国立台湾大学】 学生33名・教員0名	稲積真哉 (土木工学課程) 宮本仁志 (土木工学課程)



図1 集合写真

芝浦工業大学豊洲キャンパスにおいて、「河川流域の水環境・地盤条件・都市インフラを活かしたチームワークによる持続可能な社会の実現」をテーマとしたグローバルPBLを2026年2月16日から25日の10日間にわたり開催した。本プログラムでは、土木工学の多様な専門知識を国際的なチームで融合させ、持続可能な都市づくりに資する実践的な提案を行うことを目的とした。

本プログラムには、芝浦工業大学（SIT）の土木系学生をはじめ、アジア各国から多数の学生が参加した。具体的には、アジア工科大学院大学（AIT）、カセサート大学（KU）、モンクト王工科大学トンプリー校（KMUTT）、モンクト王工科大学ラクラン校（KMIL）、タマサート大学（TU）、国立台湾大学（NTU）の土木系学生が参加し、多国籍チームが結成された。

プログラム期間中、参加者は複数のグループに分かれ、河川・洪水対策、地盤条件に応じた都市設計、インフラ整備に関するプロジェクトに取り組んだ。グループ活動の初期段階では、アイスブレイク活動を通じて参加者同士の親睦を深めるとともに、グループワークの目的と目標についてAsst. Prof. Susit (KU) より説明が行われた。異なる文化背景を持つ学生たちが創造的なアイデアを出し合い、協力して問題解決に取り組む過程は、その後のグループワークにおける良好な協働関係の基盤となった。

文化交流の機会として、溶液ワークショップを各大学別に実施した。KU・AIT・TUの学生は2月18日午前中に、NTU・KMUTT・KMILの学生は同日午後とGLCIにて体験した。これは日本の伝統文化を体験する貴重な機会となり、技術的な議論だけでなく、文化的な理解を深める重要な役割を果たした。参加者からは、日本文化への理解が深まったとの声が多く聞かれた。

各参加大学からは、それぞれの国や地域における土木工学の取り組みや研究成果についての紹介が行われた。芝浦工業大学の博士課程学生、AIT、TUの教員・研究者がそれぞれの研究環境と研究内容を紹介し、参加者は各国における土木工学の多様なアプローチや課題について理解を深めることができた。

現地視察として、首都圏外郭放水路ツアー、鶴見川多目的治水地ツアーが実施された。参加者は実際の都市インフラや治水施設を視学し、理論と実践を結びつける学習機会を得た。また、2月21日（土）および22日（日）には、各グループが東京およびその周辺地域における自主的な現地視察を実施した。

最終日には、各グループによるポスターセッション形式の最終発表会と閉会式を開催した。ポスター発表形式を採用することで、参加者同士がより自由に質問や意見交換を行える環境を創出した。各グループは、河川・地盤・都市インフラに関する創造的な分析と政策提案を発表し、他のグループメンバーや教職員との活発な議論を通じて、提案内容をさらに深化させることができた。

今回のグローバルPBLは、技術的知識の国際的な共有にとどまらず、多文化環境における協働の重要性を実践的に学ぶ貴重な機会となった。参加者は、持続可能な社会の実現という現代的都市が直面する重要課題に対して、国境を越えた協力により新たな解決策を見出すことの意義を深く理解した。この経験は、将来の土木技術者として、グローバルな視点を持ちながら地域に根ざした課題解決に取り組む基盤となることが期待される。



図2 講義聴講中の学生の様子



図3 グループ活動の様子 (1)



図4 グループ活動の様子 (2)



図5 異文化交流の様子



図6 最終発表会の様子



図7 最終発表中の学生